

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

69

医療安全・医療事故



市民病院
院長 神谷里明

病院や介護施設で転倒することは全て病院や施設の責任でしょうか。食べ物や飲み物を誤嚥^{えん}して肺炎になったり、窒息したりすることは犯罪でしょうか。

病院では入院時に患者さんにどのような危険が及ぶ恐れがあるか本人、家族からの情報を基に検討、評価、判断し記録しています。どれくらい自分で移動が可能なのか、転倒する危険性はどれほどあるのか。食事などは自分でどこまで摂取可能なのか。誤嚥する危険性はどれほどあるのか。認知機能はどこまで保たれているのか。自分で判断できずに危険な行動をとったときには誰に相談し、行動制限が必要なことを理解し、判断してもらうのか。皮膚などに弱い部分はないか、床ずれの生じやすさはどの程度なのか。感染症に関しても自分自身が感染症を持っているか、逆に感染症にどの程度かかりやすいのか。入院時に主

に看護師が上記のことを含め全て確認し、評価し、対策を考えて記録し、医師など患者さんと関わる全ての職員と情報を共有しています。それでも院内で転倒したり、転落したり、誤嚥したり、床ずれが出来たりすることがあります。これらの発生を0%にするように努力はしていますが、残念ながら100%防止することはできません。ただし発生してもそのことに対して直ちにどのように対応するのか決めてあり、そして患者さんへの影響が最小になるような体制を整えています。また次に同じ事が起きないためにどうしたらよいか情報収集し、対策を検討し、院内の対処方法を変更しています。院内で転倒し、ケガをしたり、元々なかった疾患が発生したりすることがないように病院職員は一人となつて日々努力をしています。患者さん本人、家族の協力、理解がなければ有効な対策はできません。医療を提供する側、受ける側が一緒になつて院内の安全を高めて事故等をなくしていきたいと考えています。

